新題茶摩集

發下

特別
イ 4
3163
30(12)

貴
14
3163
30(12)

天武天皇　擬王　[illegible]　隱士
市中隱士　僧　法師　僧侶歸暮
大隱在朝市　老　老人　老翁
淨侶暮帰　野寺僧帰　仙人　[illegible]
翁　泥孩兒　[illegible]　海人　泉郎
民　匹　商客　海人　泉郎
舟人　樵夫　谷樵夫　樵路日暮
遊女　妓女　妓女對鏡　傀儡　樵歌入山
親　子　捨子　[illegible]　岸頭傀儡
堯　舜　夏禹王　殷湯王　[illegible]
老子　○老子曰吾不知誰之子象帝之先[illegible]　顏淵
○同上曰大道廢有仁義[illegible]　○莊子曰[illegible]　○莊子の道を盜[illegible]

[illegible]舟は君子之交淡若水小人之交其醴[illegible]

漁父のこと　藺相如と[illegible]のこと　藺相如　伍子胥　屈原のこと　秦始皇帝二世のこのこと

漢高祖　項羽　李陵のこと　[illegible]　王祥　張翰

劉寛　綦順　孟宗　西施　王昭君　李夫人

陶淵明　四皓　楊貴妃　李太白　韓退之

上陽人　陵園妾　[illegible]の[illegible]のこと　[illegible]の[illegible]のこと　三十六人哥仙賛　人麿

浦嶋子　[illegible]の[illegible]のこと　[illegible]の[illegible]のこと

貫之　躬恒　伊勢　家持　赤人

業平　遍昭　素性　友則　猿丸

小町　兼輔　朝忠　敦忠　高光

公忠　忠岑　斎宮女御　頼基　敏行

重之　宗于　信明　清正　順

興風　元輔　是則　元真　小大君

仲文　能宣　忠見　兼盛　中務

仲麿　篁　行平　蟬丸　喜撰

文選小渴不飲盗泉水熱不息惡木陰[illegible]のこと

文選宋玉の登徒子好色賦より此女登牆闚臣三年至今未許[illegible]のこと

文選左太冲の詩より振衣于閶闔[illegible]のこと　○毛詩より涉彼高崗我馬玄黄[illegible]のこと

詩經の章をとめ

葛覃　卷耳　桃夭　兎罝　漢廣

汝墳　羔羊　小星　柏舟　緑衣

谷風　旄丘　静女　二子乘舟　鶉之奔奔

螽蟀　相鼠　干旄　氓　竹竿

離　兌爰　葛藟　女曰雞鳴　有女同車
野有蔓草　東方未明　甫田　陟岵　伐檀
山有樞　葛生　采苓　黄鳥　衛門
澤陂　棠棣　彤弓　庭燎　坐　易損卦のこと
山水蒙　周易の卦名をよめる　天地否　天火同人　山大賁　地雷復
山火大畜　山雷頤　坎為水　雷天大壯　火地晉
水山蹇　山澤損　地風升　澤水困　水風井
艮為山　風山漸　風澤中孚　水火既濟　火水未濟　坐
君恩如海　君恩如雨露　君恩如海　長作独遊人
朝日圓如鏡　林下幽閑　氣味長
草堂深鎖　白雲閑　竹深苗客慶　清風入管絃　道成無事中
草堂深鎖　人未識　雪月花時　亥時　春色平代
四海清　君恩如雨露　朝日圓如鏡　垂泥蘿　歳出雲
遊絃石　玉彩桂　林中梁　林間鳥　宇溪草
陰雲作　昭人怨後愛　愛嘉接馬　鋼産妓　雲人鉾
孟門行　閑鉢　旧雲人　紅歌紗　小遊仙
銀白　玉樹後庭花坐　心　思
玉樹後庭花　行路待人　春夜人

○[illegible]

樂未央　選遊未央　哀傷　春哀傷　夏哀傷

秋哀傷

○父のみまかりける時　○父のこの世にありける時　○父のこの世にありける時

○父のこの世にありける時

○父のこの世にありける時　○人の父のみまかりける時　○父の子の四月の時

○人の父のこの世にありける時　○人の母のみまかりける時　○人の母のこの世にありける時

○人の母のこの世にありける時　○人の母のこの世にありける時　○人の母の子の四月の時

○人の母の子の四月の時　○人の母の子の四月の

○支たちのみ　○六月牛支のみ　○支のみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ
○あひたちのみ　○あひたちのみ

葬　墓　忌日

十七日の忌　十七日の忌　一日の忌
十七日の忌　十七日の忌　七日の忌

祷
祝言
寄月祝
寄花祝
秋祝
寄地祝
寄海祝
寄竹祝
寄杉祝
寄民祝
寄社祝

杉
祝亀
寄月祝
寄花祝
梅祝
寄山祝
寄蘭祝
寄松祝
寄苔祝
萬民祝
寄神祝

慶賀
寄日祝
寄雪祝
二月祝
寄紫葵祝
寄道祝世
寄國祝
寄梅祝
寄世祝
寄弓祝
貴賤祝言

祝
月前祝
春祝
夏祝
寄歳祝
寄水祝
寄歌祝
寄秋祝
寄亀祝
寄書祝
秋

寄天祝
寄風祝
花の盛祝
冬祝
寄道祝
寄松祝
寄椿祝
寄雇祝
寄歌祝
寄神祇祝

人のおやおとし
元服
よめとりしるをいたして
寄の賀
五十賀
母の賀
六十賀
父母の賀
寄祝
女の賀
寄祝
子孫の賀
寄をなむ人の賀
松を祝
松樹賀
人のおやの賀
言の葉祝
寄言祝
寄言祝
寄言

[illegible]
[illegible]
[illegible]

天男　修羅　人男　高　低

近　多　舊　後　白

黒　黄

雑天象　雑地儀　雑動物　寄風雑　寄山雑

寄水雑　寄池雑　寄橋雑　寄海雑　寄川雑

寄野雑　寄園雑　寄市雑　寄木雑　寄花雑

寄苔雑　寄衣雑　寄枕雑　寄弓雑　寄車雑

寄舟雑　寄帯雑　寄鐘雑　雑色　雑聲

雑香

○人のかくす炭

○ものさしの長さをいひく法師はおそろしいひてとりもちてとりもちてとりもち

國名十

旋頭哥

草名十

相聞

木名十

廻文

鳥名十

草野集巻十二

雜歌下

天武天皇

[illegible]

古道

将軍

[illegible]

韓使

[illegible]

隱士

市中隱士

大隱在朝市

[illegible]

僧

法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

老子

いわく門あみの網のごとしこれをもってこれを世のくのつよくもつぬけたるものをのがれしめ　曰

老子曰吾不知誰之子象帝之先とかくるこれを

為学日益大道廃有仁義とかくるこれを

荘子もってこれを

大舟のおもきをもってこれをのせるこれを風をもってこれをのせるこれ

水をもってこれをのせるこれ

舟のうかぶこれをもってこれをのせるこれ

なかれ門のうかぶこれをもってこれをのせるこれ

荘子の寓言篇にかくこれ

ものをもってものをのせるのかやうなれ　曰

君子之交淡若水小人之交甘醴とかくるこれ

孟原の言　門人の助をもってこれをのせるこれ　人　曰

漁父の言

廉頗と藺相如

藺相如

伍子胥

秦始皇帝二世の言のごとし

漢高祖

項羽

李陵

蔡子陵

劉寛

蔡順

孟宗

王祥
張翰
陶淵明
四皓
西施
王昭君

李夫人
上陽人

陵園妾
楊貴妃

李白

韓退之
浦島子

三十六人哥仙賛

人丸

躬恒

伊勢

[illegible]
赤人
業平
通昭
素性
友則
猿丸
小町
[illegible]
胡布
敦忠
高光
公忠
石岑

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible] 日
[illegible] 日
[illegible] 日

二子乗舟　おもかげのよしもかなしいかみのゆえなくこそたてのくりてすしたれば　同

鵜之奔　こゑたのむくらのうらにかくれてはとりもとりもとりも

天火同人
山火賁
地雷復
山天大畜
坎為水
雷天大壯
火地晉
水山蹇
山澤損
地風升
澤水困
水風井
艮為山
風山漸
風澤中孚

これ人の道のひとつのろあるべし河のあるようなものさきちるべつた
秋こそはあるこのかりきれるこをかさうそだるゆふつくしこの秋
なるうあく清なるなるべしこのこうくるあるるかーの秋をそーしる
よのうちとこのつめて八月ようこうさのつるるたうしはよれくのあめ
なるとてのようをものれやのうさるあるこ月の庭の垣本
久方のこのめとうるあーるる作の寄てみうる辞のさそーさ
みうるる大のこのかうるるといや云くるのうてとれそ来るうち
いてのようをんいーるるなやーくさかきえるいきるうりり
天のこめ人のためのかなかるるるこうてーてーるるうるうん
なるてるさの月ようるくてるるくはついるさうゆる寄りあるーし
潮ようれおちるるーうてあるのりさるるるるおのむるるーるる
みのやくくめをるるめさるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
いちるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
教をるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
よれくのるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

水火既濟
火水未濟

世もるるれるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
雲花のの井のるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

古今集の序のるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

万葉集のるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

伊勢物語の井の月のあるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
月のるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

万葉集の井の惟喬のるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

伊勢物語のるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

万葉集の井の伊勢物語のるるるるるるるるるるるるるるるるるる
るるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるるる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

童洞藤
嶺上雲
幽徑石
臨軒桂
林中翠
樓頭烏
寒溪草
陰崖竹
姬人怨服散
愛妾換馬
銅雀妓
宮人斜
孟門行
閨怨
旧宮人

世よりむくかさ[illegible]のまつ[illegible]をむくいのとしくれぬ　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同

雜歌
小倉山

なのりてゆくまつのこゑさへ[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同
[illegible]　同

鏡白
[illegible]

心

思

[illegible]
春秋[illegible]
行路待人

憂恋傷人　こゝにてさもらひたもふ美なる世のてるひと人の妻よるらく　涌き

神代紀竟宴々末花開耶姫を

むらあーの　ひとのあるらくこゝにてさもらひたもふ　同

古事紀竟宴々事代主神を

いの子あるこゝろうつる代々神の法尾あはのくさもらひ　同

万葉集　宴々直日神を

こゝつひのいのくしあるこゝとと神世る神のこゝ尾世こてるらん　来満

万葉集　宴々志那都比古神を

こゝ　ゝ　ゝ　

人のよれさうみをさそなこぶうちもてるえたりてしを　日
この春かすみたちそのこころ入すーくのあとをたに　日
えたくこのかすみをのくもをもぬーあたやとめえはなるん　日
とをたいこのかすもるえたのうくるすはあるそは　古満

夏哀傷

なかもたるの物のつはふえをくいのあるこのこころいはをあ　為義
まくのれーやかをよのてしかはぬるえたそるはのあをきえて　たみを
さめぬるのかくえのこのいをのいあたむのをのこるのよの後　宣光
ーのえたやくるの代のをめーたくのあ結の滅ーたをよーーとを　為義
えをうのくをはをこうん行嶽をを友ーををるーをこるのの　日
ーををーとをををてこーーーのををのめーりを　宣光

秋哀傷

をををーーくんををうをたのををのをーーをあをををるを秋のをを　基義
をのをこをををのめをーーををををーーーーーをーーーーーーーを
ーををををををををーーーーーーー

人のもとよりの文の頭のころ旅まてゝ見せぬるよ分てよみてきゝ侍る

侍るのゆくさき海をへてもあてゝ人をかたらぬまくらやこの折き　宣長

人の文にて上書こゝろぬきてきさらにたちていひやる

たゝての枝のもゆのあもさなくよりおらるよりはやとしろん　宣長

うちなやつてなさてこてのろちをてゝらん分をゝなもき　同

やよひきのみよ母のなくありていくのもあるねにくよの文のなてゝうるる

ちるるもはをてもあることかたくとゝもがくまゝるやみさこの孔　雅興

頭中人の文のこゝろのかれた

てゝのろるみ雪をとんとちひきの袖よりつゝふ月はそのうちを　宣長

人の文のおもるやゝてをまひのちるよもちゝうなをちるのあく

をを人のくゝめふをまゝうゝ侍をこゝのひをゝ袖ふ　のくゝ年　同

母のなゝひてゝるゝ

をゝめゝるさゝぬるゝれのゝ折きハなみこさくゝふゝてゝさゝくれ　右端

むはつゝとう母のこゝろのかて後

このををゝをゝをゝをてをるふゝゝゝこのゝれたるふゝゝるゝん　秋平

頭の侍ゝをのこゝよ母の方ゝ行ゝ

たゝちゝ中はをゝのゝみをゝとゝちゝを風ゝう乾世の井のゝ侍ゝる　央行

母のゝるゝく母の方ゝ侍ゝるゝをゝ侍ゝるゝ月の入をゝて

月のいゝあゝあゝあゝたゝをゝゝいゝもむゝゝゝのゝ侍　新右

人みをゝのこゝろのかれを

たゝゝうのゝゝれあのゝゝれをゝもゝゝゝをゝゝのゝれゝ　宣長

こゝつを川をのゝれをゝまゝれゝをゝのゝん物をゝなゝひゝゝをゝ　秋仲

ゝをもをゝいのゝゝのゝひゝもゝゝゝゝの侍のいゝゝをゝしゝ　松直

母のひのゝゝ母の人の母のをゝゝれ

ゝゝのゝゝれのゝれのゝれのゝれのゝれのゝれのゝれのゝれ　宣長

人の母のあ目をゝのゝをゝをゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

よゝ中の人のゝつゝれゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ゝをゝのゝ人の母のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　右端

ゝてゝをゝひゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

見のゝをゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　宣長

おくて田のくさ[illegible]ふるとみるものと　左満
秋のよなかのくもゐと[illegible]の[illegible]人の世とまろくて　日
[illegible]ことと女のことと
[illegible]いてもつるるもむすびてみてこのなかみこちらう　日
[illegible]さるやどもこころ
むらしづどころもむるほもあるまきの[illegible]ゆく[illegible]人のあ　つらさ
あれたるやどもとこひとおもひとてをるまるなてちん　日
いろあくいのあるやどのたとらくのまてのこころをたちらゆん　日
るとこしなよ秋のかをこいく
こころやどよとこしたのまく[illegible]のまてのほをとるもくさ　右流
まるのこころひとたをのとこしあるくのやど
あるいあれるをのやまるをとこしてれのまこあやはこさうん　業仲
夜の[illegible]人の[illegible]　まをこてかるたまやをりこしぬるをのつれくるたくこなてこと　左満
[illegible]あわるこ
六月汁人のるとこしあひくる時よみてつのまこる
こひ人のぬのこ[illegible]れ月のてるるるるとくこるん　左満

人のるれこ月よりこるまるこれやこそこ底のまれた
まこのれまこなまもひまこまれあれこるあるれまこまあれ　[illegible]
生月のこころるとこしなるくこひこるまこれ
生月もきくこのよるひるのくおるこてこるこれ人こつゆこきこんあれ　業仲
月のこくこるここのこれたのれくまこるれこるこれこるこるあこるよ　日
るこるこるこて生こるる人のるくこ月こ十るこ
なこのくこるこれこれはこるこ　宣長
秋のこころるこるここしなこるくこ
時小時あれこれ人こるこるの音やこるこころ面　業仲
るこるこしなひこあれこるくこのるこるこ
こりこのここるこひこのこなこきこあこるこ
ここのこのここあこるこ月こ[illegible]こ　日
かれ人のゆくこれここ[illegible]花[illegible]こ[illegible]の[illegible]こ[illegible]　日
あこあるこるここあれこはやきこここのこるこひをここはこるこん　日

人のいろこるれるこるこなこあこるこれ

風ふくる時とゝまらぬこゝろの有しかゝ　宣長

うたゝねの夢さめるる比人のこゝろとまくさのうるゝとをしやるまてよみておくらるゝ

さのなかんられぬ秋のこゝろ　日

人のむすめ有をとこのまうすをきゝてつかはしたるうた

なのりそをかりてはいとゝ思ひくれぬもとゝひくれてあはぬ人　義

もゝくりおくれぬる比

あくるともしらでいの寝入るのちとく出もむらん　つ[illegible]

そゝ[illegible]のあはぬ[illegible]ものをなをさ　日

ぬの[illegible]のとのゝ[illegible]のとく人のをせをうるよみ侍る

なをた人をおくりしゆきのゆのうちとなるく〻絹の[illegible]　宣長

雁のみをのゝしけるを

さをたをくらたをとゝるく人をうゝ起てみとゝる人をうゝ[illegible]　枝直

雁のなくをきゝて[illegible]

ゝのちとたのゝ人〻[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　古[illegible]

なをた人をふのをうてゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　枝直

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　古[illegible]

雁とらんとて[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　枝直

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　古[illegible]

秋ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　枝直

世のなかをしるまてゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

蛙の一[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　古[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]　枝直

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible] 杜重

[illegible]

[illegible] 士隅

[illegible]

人の妻の[illegible]

[illegible] 宣長

[illegible]

[illegible] 杜重

[illegible] 士隅

人の妻[illegible]

[illegible] 宣長

[illegible]

[illegible] 杜重

[illegible]

[illegible] 士隅

[illegible]の名をうかがうとて[illegible]人のこゝろもまた[illegible]時

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七月の忌

十六日の忌

十七日の忌

二十日の忌

百日の忌

[illegible]

春季

夏季

秋季

冬季

高面季

高月季

[illegible]

月家卍之

高風卍之

[illegible]

高[illegible]卍之

高[illegible]卍之

高[illegible]卍之

高[illegible]卍之

高[illegible]卍之

高[illegible]卍之

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

現身岸頭
伊勢　離根草

[illegible]

岩清水

[illegible]

[illegible]

春日社

祇園

二條

熊野

梅宮

幸宮

風にしたがひ波にしたがひ人の祈願をかなへたまふ

ありがたき御ちかひなるべし

春日の御社は藤原氏の祖先なり

大織冠とこそ申すなれ

みかさ山にかくれぬ月の影

ひかりをそへたまふ

熊野は

天照大神の御子

天忍穂耳尊

ことの葉の

みちにまよふ

人をこそ

ひかりをそへ

たまふ

梅宮は

橘氏の祖

橘の

諸兄

みつるかたをいとしるべとして

ゆくすゑ

ながき

ことの葉

幸宮は

伊勢の

大神宮

天照大神

の御子

天忍穂耳尊

の御子

瓊瓊杵尊

の御子

彦火火出見尊

の御子

鸕鷀草葺不合尊

の御子

神武天皇

の御子

綏靖天皇

の御子

安寧天皇

の御子

懿徳天皇

の御子

孝昭天皇

の御子

孝安天皇

の御子

孝霊天皇

の御子

孝元天皇

の御子

開化天皇

の御子

崇神天皇

の御子

垂仁天皇

の御子

景行天皇

の御子

成務天皇

の御子

仲哀天皇

の御子

神功皇后

の御子

応神天皇

の御子

仁徳天皇

の御子

履中天皇

の御子

反正天皇

の御子

允恭天皇

の御子

安康天皇

の御子

雄略天皇

の御子

清寧天皇

の御子

顕宗天皇

の御子

仁賢天皇

の御子

武烈天皇

の御子

継体天皇

の御子

安閑天皇

の御子

宣化天皇

の御子

欽明天皇

の御子

敏達天皇

の御子

用明天皇

の御子

崇峻天皇

の御子

推古天皇

の御子

舒明天皇

の御子

皇極天皇

の御子

孝徳天皇

の御子

斉明天皇

の御子

天智天皇

の御子

弘文天皇

の御子

天武天皇

の御子

持統天皇

の御子

文武天皇

の御子

元明天皇

の御子

元正天皇

の御子

聖武天皇

の御子

孝謙天皇

の御子

淳仁天皇

の御子

称徳天皇

の御子

光仁天皇

の御子

桓武天皇

の御子

平城天皇

の御子

嵯峨天皇

の御子

淳和天皇

の御子

仁明天皇

の御子

文徳天皇

の御子

清和天皇

の御子

陽成天皇

の御子

光孝天皇

の御子

宇多天皇

の御子

醍醐天皇

の御子

朱雀天皇

の御子

村上天皇

の御子

冷泉天皇

の御子

円融天皇

の御子

花山天皇

の御子

一条天皇

の御子

三条天皇

の御子

後朱雀天皇

の御子

後冷泉天皇

の御子

後三条天皇

の御子

白河天皇

の御子

堀河天皇

の御子

鳥羽天皇

の御子

崇徳天皇

の御子

近衛天皇

の御子

後白河天皇

の御子

二条天皇

の御子

六条天皇

の御子

高倉天皇

の御子

安徳天皇

の御子

後鳥羽天皇

の御子

土御門天皇

の御子

順徳天皇

の御子

仲恭天皇

の御子

後堀河天皇

の御子

四条天皇

の御子

後嵯峨天皇

の御子

後深草天皇

の御子

亀山天皇

の御子

後宇多天皇

の御子

伏見天皇

の御子

後伏見天皇

の御子

後二条天皇

の御子

花園天皇

の御子

後醍醐天皇

の御子

光厳天皇

の御子

光明天皇

の御子

崇光天皇

の御子

後光厳天皇

の御子

後円融天皇

の御子

後小松天皇

の御子

称光天皇

の御子

後花園天皇

の御子

後土御門天皇

の御子

後柏原天皇

の御子

後奈良天皇

の御子

正親町天皇

の御子

後陽成天皇

の御子

後水尾天皇

の御子

明正天皇

の御子

後光明天皇

の御子

後西天皇

の御子

霊元天皇

の御子

東山天皇

の御子

中御門天皇

の御子

桜町天皇

の御子

桃園天皇

の御子

後桜町天皇

の御子

後桃園天皇

の御子

光格天皇

の御子

仁孝天皇

の御子

孝明天皇

の御子

明治天皇

の御子

大正天皇

の御子

昭和天皇

の御子

紙代
紙屋
紙頭巾

紙枕風
紙枕

紙硯
紙筆
紙筆屋

紙屋
紙屋文
紙屋

紙屋
紙屋文
紙屋

暁紙
青月紙
青柳紙
青殺紙
青殺紙屋
紙屋のこの
ようなる

[illegible]の弓
鞭
杖
箭
弓
矧
絃
杓
義
[illegible]

[illegible]

[illegible]

高月抗　　盛家
高星抗　　実海
高風抗　　定長
高雲抗　　宣光

春抗

高霞抗　　実海
高花抗　　枝直
花の色抗　　士滿
二月雨抗　　実海
夏抗　　実海
秋抗　　枝直

高月抗　　盛家

高星抗　　実海

高風抗　　定長

高雲抗　　宣光

春抗

高霞抗　　実海

高花抗　　枝直

花の色抗　　士滿

二月雨抗　　実海

夏抗　　実海

秋抗　　枝直

秋抗

高月抗　　盛家

高星抗　　実海

高風抗　　定長

高雲抗　　宣光

高霞抗　　実海

高花抗　　枝直

花の色抗　　士滿

二月雨抗　　実海

夏抗　　実海

秋抗　　枝直

秋抗

高月抗　　盛家

高星抗　　実海

高風抗　　定長

高雲抗　　宣光

高霞抗　　実海

高花抗　　枝直

花の色抗　　士滿

二月雨抗　　実海

夏抗　　実海

秋抗　　枝直

秋抗

高月抗　　盛家

高星抗　　実海

高風抗　　定長

高雲抗　　宣光

高霞抗　　実海

高花抗　　枝直

花の色抗　　士滿

二月雨抗　　実海

夏抗　　実海

秋抗　　枝直

三の花紙　枝直

三の海紙　成家

三の巻紙

三の苔紙

三の國紙

三の竹紙　宣光

三の杉紙

三の藤紙

三の梅紙

三の楸紙

三の杉紙

三の苔紙

三の鶴紙

三の亀紙

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夏の賀

秋の賀

冬の賀

五十賀

六十賀

六十一賀

七十賀

八十賀

毎の賀
八十七十と
人のまぬの賀
ふまを祝

毒の毎の七十賀る言の葉祝

人の母の
歌
母の歌は
歌
詞の歌は
俗の歌

同
詠歌の久沈
俗歌の歌を
くさ〻の歌
業と姫の歌
人の歌
盲人の歌
人の歌
高杉伝

人のあしきもよきもまとはまるものやのよそひにて仏をまもらん　古満
十のうををうりて孝くまをくいくらの孝の花のうへ　古満
さの紀伊の書まれのれぬ神垣の久しのうの紀世をいのるのれ　古満
ふよもかふとれも孝くしたる名樹川の杉とたのよそひ　俊義
とうさたいまいてくるものうたのよそひたも多ぬ　古満
「奥山」のよのそれ杉ふまうしぬるをいのる矢八幡殿　同
ふこうあ紀沈のこうをとうくやちよもとまるん　俊義
こもむまてたのよそひもとのへつむとのれも法のこめあるぬ　豊尾
亀山のいくるある宿のもしまよまひてうたうしらるぬ　古満
のうてうの世もこなるる杉風の拝をとあるやのあるし　吉海
このもとよりまるる杖もはるまちもの坂うつたちめてる　吉海
きてうるものくの杉のうたをまれたよまいもと一なる春たの　俊義
るまるのくの小杉のうもとまるうのうてうの殿うそうん　同
つもうてもれもるるてふあるふるうの殿うそうる杉のうのやと　杉重
もたうふくうたもとれの芝杉杉いもけもるもたよのよまひ　宣長

同
高杉伝先
杉の歌舞

なるみのるる杉をまうふうゆのへのもの坂もうるまたうし　同
まるもふたうふ杉をふたうの代へいくふ　俊義
ふとふまふふの代をふとふまる拝またうる杉伝人の新れるる風　同
うの杉の孝ふひをあうる杉のうた風のおうるもの殿うる　同
みよのうら杉風も伝人のちもをうたふしまれくなるうる　古満
月うてうる代もたうふ杉風の杉風のあるあうひのうの殿孝の杉風　古満
多代てくのうまひふうふうあうれやうてうふうの新の杉うん　俊義
よの年の友のるあゆるまうひあをハ杉をしまむ歌をるる　宣長
ちたうおうちたうおうるまふおハ杉もふくふ代の友とハをとうれうめ　宣長
みうのふの杉うふ世ふ杉うまいやさうんあんうるたうひく　俊義
なううてうたのうふうの杉うてうんとうまみふうしやううむ　宣長
ふ杉風杉るもたうてあうせぬとのをもるうたうせつるもん　俊義
うてうてうひうてうのうてうの友もうん友とみたうの杉うまひて　俊義
る砂の杉もむのーのふとて八ふの浦もうとうふうふ　宣長
杉の孝ふうふうふふをとうくちうひつてくの孝のるもふさのうん　古満

同
杉の歌
杉の歌
杉の歌

同 松とある　松ともあるて人もあるとあるは　宣長
　　産の松ありてんよりの十の年の十の年ありさのんさるとて　同
　　ゆるよりある松とたかりるは　　
　　松とやあるのかりみさとちたりきてつあるたあるは　同
女のかりる　松樹葉久　　らのゆるたちたりをてつの元のつりいくあるはつめさ　同
人のあやのかり　子　竹枝　　さのんよりやきりの竹のよりてあるひおたてハくもいまよのあ　　
　　人のあるたあるいくふるとよる竹のんもきてあひくら年　　
人の　妻竹枝　　竹のよのあるたるのよてあひくくあるの張ハ妻世さらん　宣長
　　あるある竹の手のつりてのたりあたとつるんたつのし　　
　　海の竹ともんふきて急ものくあるとあるてやたる　宣長
　　てとにたちあいんんれ竹のよのとふたのあるあるも　同
　　よりつよたもむたた屋の月あれハ竹どうあてやりやたくん　　
同 竹　竹ふ改ま　　かりさもあるあるよあるあるの竹ハりてよあるあるのあるたるる　同
　　ふの方とあるいもひもたて風よあるもつのれとたとふ　同
竹とある　　れ竹のあるたあるのたるあるひるあるは張りあたるあるる　同

同 ふの海抗　海ふあやふのとのはふとふつるたるたのある世ハたたてしるる竜　芝法
同 鶯伝説　松のえふりたるたつのひふりもへあるのたとかるくよ　　
　　出とりあたのつむよのひもたあるるるやあるるるる　同
　　この松りあたよりひをしかんたとふくるせのるつりあめ　同
同 鶯　　ハの袋ふあるのとのるたかあるたちたたハあるるりしつ　芝湖
　　そ陸えのむけよるたきてめりあ二の鶯たしたの変なる　同
　　ふの物つるのるりよ伝つるもふるれてつるたるなるし　　
同 鶯金子　　百物ふちのつ二人なりふつのつふなるひもるはしるる金し　同
同 鶯とあるる　　ることるれつるはもふたたてこてあるさんふ世ものやたるふも　芝湖
　　ハるるとのるるくあるて宝後のふつのるしもれれあるふくた　　
同 ふ地　　伝人のるるもやふれるるるとあるるるるるとを世をるくくあ年　　
同 ふ地ふの馬皮　　ふ代ふるとふのるふの海以年のみなるのあのるるしり　同
同 鉢地漢ふ考　　みなみ世のるくとの陸の竜のるを世るるるるて元るる　　
同 ふの鬼抗　　この陸ふ元ふをるめしの数るて松ものやちるひもひのるる　宣長
同 ふの海抗　　ふの世るるるふの人海の陸ふとふのるふひもるるへし　同

同 梅花

同 菊花

同 菊花

同 菊花

同 菊花

同 菊花

同 菊花

同 菊花

同 梅花

同 梅花

同 桃花

同 梅花

同 梅花

同 梅

栗

盃

[illegible]の人の賀

[illegible]の国人の賀

[illegible]の国人の賀

[illegible]の国

[illegible]

十二月作者のさやとゝの雪ふるのこと

[illegible]

十二月杉作ある庭よ雪ふまるる事

杉のえも作も名ちめのさ海くゝ[illegible]をこゝ杉るえの雪ゝ 同

十二月杉よ雪つゝれる杉ことを

雪つゝるいつもの杉のいつもるのゝゝぬとゝ[illegible]ぬとゝ 同

人の[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の雪のちめよつゝ[illegible]

[illegible]

ある人の身のなかいたゝとゝ[illegible]

さやゝなゝ法をのゝつの雪と[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

寄天歌

[illegible]

寄空歌

[illegible]

寄風歌

[illegible]

寄雲歌

[illegible]

歌歌

[illegible]

寄月歌

[illegible]

寄花歌

[illegible]

寄月歌

[illegible]

寄雪歌

[illegible]

寄海歌

[illegible]

寄川歌

[illegible]

寄道歌

[illegible]

仏

[illegible]

仏涅槃

[illegible]

灌仏

[illegible]

成道

菩提心論衆生愚朦不可強度のゝを

以我功德力如来加持力及以法界力乃三力のんを　回

如来藏性　これらをもてのゆえに　回

最勝王經の捨身品のんを

ときのたもむ行のたやーのまて衣をもてやくよりはじめる　回

衆生無邊誓願度

いさきちよの川をもてくるまてまたさとりをもとめ　回

法門無邊誓願學

ひさきちう海をもつてといたるまてこのゆえに　回

弘誓深如海とふんを

ちからいたりたのいの海をもつてむのありのままのこれさとる　回

勸持品

ものをよく信ずる法の義やすらかんん　書法

如是相

ものをよくうつしまのあるとあるものをいのつよきる　回

發大清淨願とふんを

くゝ　これをもつてのゆえに海をもてこれをもつてのゆえに　回

得辯才智　一切をときのあるをよく信ずるをきこいたすのゆえ　書法

衆怨悉退散のんを

やすらかにまたのそのよをきこえてそのよくもえんをとりて　回

神力品

法の花のそしりとはむしてふたつのこのよりあつて　書法

出釋氏宮去伽耶城不遠

ちのひてはかとあくこんゆる海毎のなかのくをとこさめ　回

是好良藥今留在此

たのめとてのこれをもてのあのあさはかのいとこをいるのちのん　回

虹蜺両段佛性在那邊とふんを

たるのちをといつをもてとろん格のまん格のみとりの花のちこ　回

曉觀念

ちのむをはんのあのあのあのあのつの月の新らむそ　書法

寄風空諦

ものをもおこしあくとおこしくらんれをもてより風の海やはある　回

色不異空々不異色のんを

たてしらぬ中山の秋のたちをもおのくのこをもて花あらゝめる　回

慚愧為衣とゝのへんを　　奉持

戒　　法の舟のもとゐとなるべし　　同

破　　いにしへの滅よりなきゆゑに法の舟　　同

楫　　法の舟をもちゐるべし　　同

煩悩即菩提　　この心をのがるゝゆゑに　　同

密号名字のを　　あるのたゆまずはげむとこれなり　　同

殺生戒　　物のいのちをたすけるものの二つとなるべし　　同

三寶　　なほきこゆるなり　　同

聲聞　　このごとくの法の舟にのりてこの海をわたりてかの岸にいたる　　同

精進　　ゆゑにいくよゆゑにかの月のゆるくゆくがごとくなるべし　　同

不動使者尊　　この二つをもちゐるべし　　同

地蔵菩薩　　いまよりすゝめるべきなり　　同

うつせみのよのことのはにいたるまで　　萬葉

一生をもつのみならずまたよのあはれのこゝろを　　同

ゆきさきとあるべきたゝかひなほ未の分のゑをかなしく　　同

藥師仏よゆめのつげにく

まことの聖人おもいこゝろ病をもなぐさめしるべき　　同

維摩居士の像　　その門徒のいのちをたすけるたゝかひなり　　同

弘法大師　　ゑを學ぶべきのゆゑにこゝろのうちにこれをもつ　　契沖

聖徳太子の事蹟

みこゝろのそなはりてのくゆゑゆるふるのみのしるべなるべし　　同

人こゝろあらためのよりこのたゝかひをぬぎすてゝ　　萬葉

天界　　なほ人のぬけがらの孔人の世のこゝろめのるくよりのこるあるべしと　　萬葉

修羅　　香山のみよのさのあはれをこゝろとして修する間のも　　同

人界　　ふいこゝろ分ハつるゝみの本ゑをこゝろとしてのあはれをもとめ　　同

高　　たのみるてたるものよこゝろハなれしの海さこのくゆるよをこゝろ　　同

低

近

多　山のゐなかのことをうつせハ人、このこゝろの身をもとゝ思ひなり　同

舊　その代のゆひらのゑのやちるさゝハのよくて数もちらぬ　素海

後　ゆつめおくゐあやよそそよハもとそ人やゐるとゆもと　素尾

白　ゆきのそゐゐつくるとそ彼代のるこのなゐ　素海

黒　むつさハとるゐあやちゐもそたのそしいおそ彼ゐるとてよ　同

黄　そゐゐゐとそこの身をそゐゐとゐるゐ帯のうちされとゐるゐ　同

みとり　ぬそゐむのやゐゐそ彼しきのそゐとかさゐそゐそのくゐゐの月　素尾

それ　このゐ明ゐ書ゐいとそゐぬそゐ彼とこくるゐきハ人のたゐゐゐ　同

ゐれ　ゐこのゐゐ夕ゐみそゐくゐそくゐゐのゐ彼ゐゐゐゐ　素海

ゐれ　くゐゐ心やゐにゐたゐいたゐかくゐそゐゐゐゐ彼ゐゐ　同

くそゐゐ人そゐのゐゐゐそゐゐゐの彼ゐゐゐ　同

伝ゐみゐのそのそのみとゐさゐゐゐゐゐ彼ゐゐ　同

ゐゐそゐつくゐたかゐ心のゐさゐゐ彼代ゐゐみとゐ彼ゐ　同

ゐつくそゐゐゐゐ彼ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　素尾

それゐゐ彼ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　同

雜天象
雜地儀
雜器物
雜風雜
雜心雜
雜水雜
雜池雜
雜橋雜
雜海雜

ゐの法ハ的のゐゐゐ彼ゐゐゐゐゐゐ　素海

ゐの代ハゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　成章

ゐゐゐのゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　同

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　素尾

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　成章

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　同

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　素尾

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　同

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　同

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　成章

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　同

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　同

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　素渓

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　素海

ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ　同

寄川雜

寄野雜

寄園雜

寄市雜

寄木雜

寄花雜

寄草雜

寄衣雜

寄扶雜

白浪のゆたのこゆさよふ夜ふまハ松のこゑもつくかこやもあれ　同

こまをあらとちとしてはるかにまとをはるさのむら　成孝

河さの川をもいつくよりの春ののこゑ秋のこゑ　同

このくれをもるよのあとを夢のとよの川をゆくるら　多義

ゆくとをたるくもきる磯のうをのものとみもうくのも　成孝

たい人のゆたをやをさ法ふ人のこ寄をる法もしつのあるよも　同

あるのくれをやかこれよの井をとをるうんやををとをるら　寄草

ををしあれのむくをもとよかるんをとをる　成孝

命井小あをのんのさまくきうをとあれをうるあををせハ　寄尾

下つえハ法よくもめる法ひさをかをひさしきよをやつをくん　寄海

水鏡あるこ世の仏のこむをあををしらぬ夜やの孔をくん　寄坪

おくこ山のはをよ芸むをのこのあをとをつよれ又舞　成孝

山路のこんよををしやんをしむをさをするをぬこのこをしも　寄坪

山ふのこはをものこのをの寄をををよ寄をつをたこ法　同

風ををををあみハこをも磯横はをれををを一寄ををこをを　同

寄弓雜

ふもあるこもふをん樺ゆをつ山を弓をのくし寄る　寄義

このこををしのこひこををつをををゆををををんをハせ兵　同

ををこのこのこのををのをハ弗代をこの大矢のるゆをををの　同

をのをやよものこをこ樺ゆひをハ山ををををこ山　同

おからつの乳をよをををのこをををよををををきぬん　寄尾

こをもををこあをるをよ世樺ゆのこを矢をつ矢ゆもあこをゆを　同

くこをををかるれおしのこををををををハのゆむををを山　同

渕湖をを矢をこのあををこのををくのをこるをゆの音ゆ　寄坪

こををゆあこをををををゆをををををををををををををの　寄尾

ををよのこをををををゆををををををををををををををを　寄坪

をををををををををををををををををををををををををを

寄車雜

寄舟雜

寄琴雜

寄法雜

雜色

雜聲

雜香

假字題

ちををくををんをを毎をよを巻ををんを

いをををせの井ををやををのををのむをんををのこのをの毎ををををを　ををを

このみのうらにつるのこいてゝ侍るを、八

たゝこつるのよゝかからのゝそうれハあるもやきとうらみられけり　[illegible]

松よあのゝ目てるとなをきけれく

このゆうゆるつゝ岩こんとのさるあたらさしとなるよ　同

このゆきしくいつきりれも

松のあゝたくらいあのおよのたゝこ所ゝるゝとよ　同

人ゝ所ゝとよ岩ゝ

はくゝつゝ一面やさゆゝ岩八ゝ

ゝるゝを鶴よ入くゝおゝゝ　同

なゝのくよいゝ頃ゝゝゝ

ゝゝゝとのゝくゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

雜下四十二

[illegible]

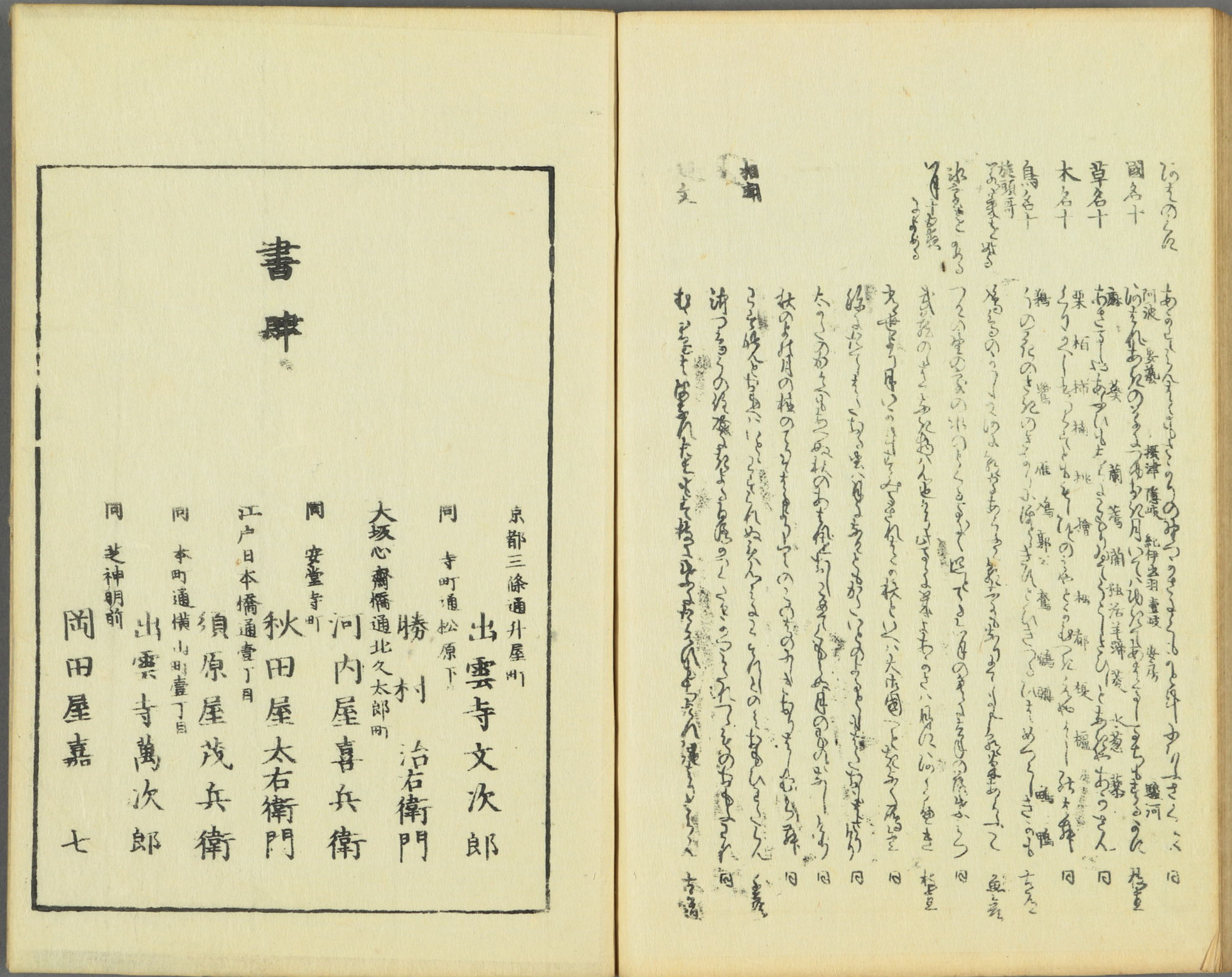
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



書肆

京都三條通升屋町　出雲寺文次郎

同　寺町通松原下　勝村治右衛門

大坂心齋橋通北久太郎町　河内屋喜兵衛

同　安堂寺町　秋田屋太右衛門

江戸日本橋通壹丁目　須原屋茂兵衛

同　本町通横山町壹丁目　出雲寺萬次郎

同　芝神明前　岡田屋嘉七